

経営比較分析表（令和3年度決算）

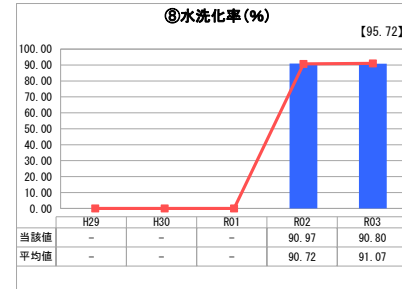
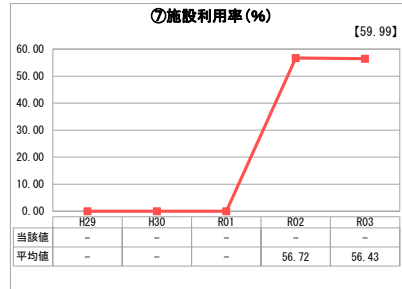
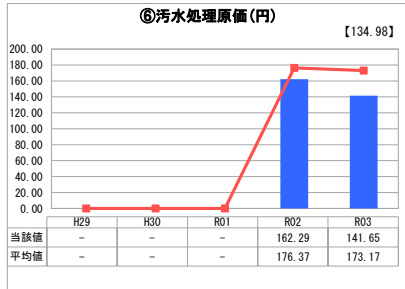
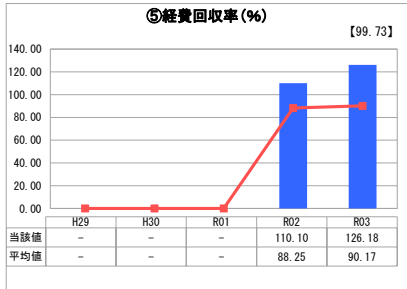
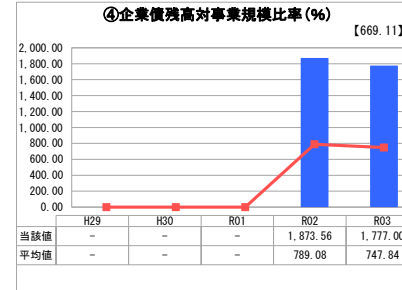
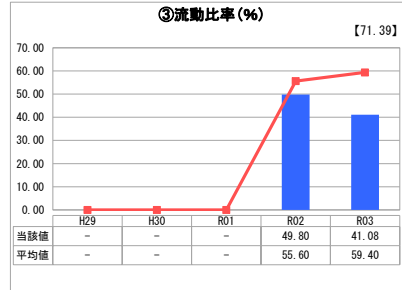
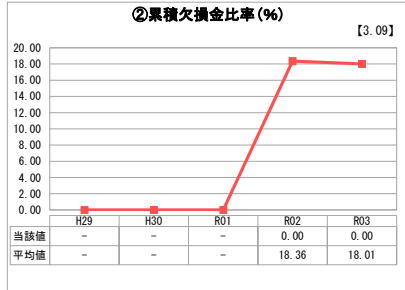
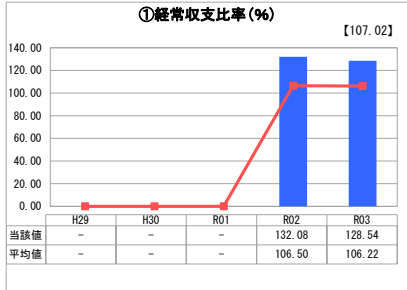
宮城県 亶理町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	57.85	81.24	97.99	3,575

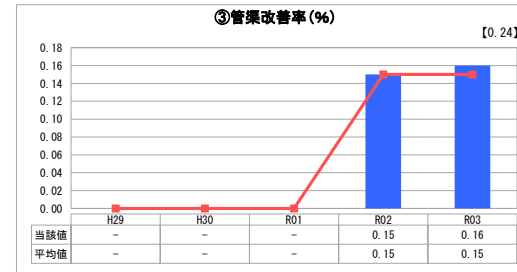
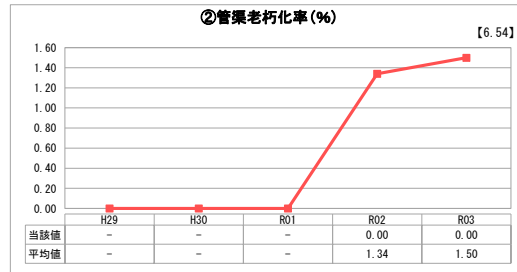
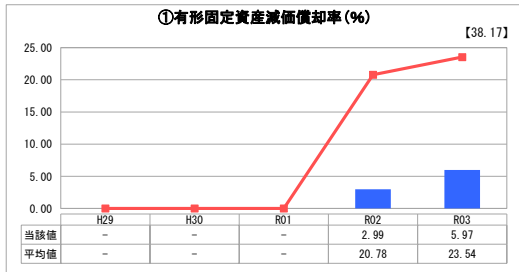
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
33,419	73.60	454.06
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
27,057	9.73	2,780.78

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和2年4月1日より法適化したため、令和1年度以前の数値はない。
 ①は単年度数値が黒字であり、類似団体と比較しても高い状況である。
 ②は欠損金がない状況を表している。
 ③は短期的債務に対する支払い能力の数値であるが、単年度負債に対応する資金化できる資産が少ないことを表している。3年度の決算では、年度内の建設改良費の支払いや、起債の償還のために一時的に流動比率が低下したが、今は現金の増加と負債の減少により、ゆっくりと改善していきと考えられる。
 ④は使用料収入に対する企業債残高の割合だが、これは拡張事業を行っている以上やむを得ないと考えられ、令和7年度に拡張事業が完了予定であることから今はゆっくりと減少していきと考えられる。
 ⑤は使用料で回収すべき経費に対する指標であるが、類似団体と比較しても高い状況である。
 ⑥は有収水量1mあたりの汚水処理費用を表している。本町は汚水処理を流域下水道で行っているため、本町の努力のみで下げることがないが、流域下水道を運営する宮城県と協議を重ねることで上昇することを抑制していきたい。
 ⑦は汚水処理能力を表しているが、前述のとおり流域下水道での処理のための、指標がない。
 ⑧は下水道への接続率を表しているが類似団体平均とほぼ同じ水準である。拡張事業を行っているため、完了までは同水準、その後は上昇していきと考えられる。

2. 老朽化の状況について

本町の下水道事業は平成2年度から開始しているため、比較的新しい状況と考える。そのため、老朽化が著しい資産は少ない。年数が経過するにつれ資産の更新は続くので、ストックマネジメントによる計画的な更新を行い、単年度に負担が集中しないよう注視していく。

全体総括

本年度についても、比較的良好な状態であると考えられる。現状の課題としては、流動比率が低いこと、汚水処理原価が高いことが懸念点であるため、前者は経費を注視して無駄を省き、後者は県と協議しながら動向を注視することで、ゆっくりではあるが改善方向に向かうものと考えている。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。